

医療法人名古屋放射線診断財団 岩田 宏 理事長インタビュー

PET-CT（陽電子放出断層撮影）、CT（コンピューター断層撮影）、MRI（磁気共鳴画像）などの充実した診断機器を駆使して発見が困難ながんや転移などの画像診断を実施しているのが医療法人名古屋放射線診断財団（岩田宏理事長）。同財団は運営する東名古屋画像診断クリニック（名古屋市千種区自由が丘）を昭和区に移転する。愛知県がんセンター敷地内に立地し、2008年から同センターのがん患者をはじめ多くの医療機関の要請を受けて高精度の診断をしてきた。PET-CTを国内で初めて臨床で活用した財団の岩田理事長にこれまでの成果、新天地での開院に向けた抱負などを聞いた。

（聞き手は塚本隆編集長）



—貴財団の設立経緯をお聞かせください。

岩田理事長 偕行会グループ（川原弘久会長、本部・名古屋市中川区法華）が川原会長の弟さんを理事長に2001年3月、グループ本部の所在地に財団を設立したのが始まりです。PET-CTは研究用としては名古屋大学医学部などにありましたが、国内で初めて1機を臨床に活用し、東名古屋画像診断クリニックはその7年後の2008年に開院。PET-CTは3機備え、CT、MRIを含めて最高レベルの診断を目指して今日に至っています。

—16年前は、PET（ペット）の名称も広く知られてはいませんでした。

岩田理事長 そうですね。国内でも一般にはほとんど知られていない画像診断機器でした。

—PET-CTの特徴、診断効果を教えてください。

岩田理事長 CTやMRIは臓器を輪切りにするなどしてがんなどを形の上で診断します。これに対してPET-CTは細胞の活性、バイオビリティーを見る検査です。FDG（ブドウ糖＝グルコースにフッ素を付けた放射性薬剤）を注射して、細胞の代謝や活性を確認しますが、たくさ

ん放射線が出ているところは色付いて写りません。CTなどでは判別が難しいがんなども発見でき、がんの広がりや他の臓器への転移などを判定する有効な画像検査です。がん患者は保険適用で検査ができます。

—高額な機器でしょうね。

岩田理事長 1機約3億円で、当クリニックに3機、名古屋市中川区に1機設置しており、こちらは年内には2機となり、法人では計5機を運用することになります。

—PET-CTのこれまでの検査件数とその成果を聞かせてください。

岩田理事長 検査件数は2施設、合わせて年間1万件ほどです。累計では19万件余りになります。健診ベースでは1日にできる人数は6人か7人ですが、これまでにCTでは発見できなかった初期段階のすい臓がんを複数例見つけています。通常の間ドックでは発見が非常に困難なレベルです。また、肺がんや乳がん、大腸がんなどを発見したケースも複数あります。CTでも保険診療では造影剤で検査する方法もありますが、やはりPET-CTは非常に高い診断精度を発揮することがある診断